

ポスタータイトル：ヒト膵腺房細胞癌株の樹立と解析

発表者氏名 星大輔¹

共著者氏名 喜多絵美里^{1,2}、丸喜明¹、筆宝義隆¹

発表者および共著者所属 ¹千葉県がんセンター研究所・発がん制御研究部、²千葉県がんセンター・消化器内科

膵腺房細胞癌は外分泌性膵悪性腫瘍の 1%を占める希少がんである。本腫瘍の本態は長らく不明であるが、原因として細胞株の不足があげられる。我々は、オルガノイド培養法とゼノグラフト形成を通じて患者由来膵腺房細胞癌株を樹立したため報告する。患者から採取された生検検体をマトリゲル重層オルガノイド培養法を用いて培養しヌードマウス皮下に導入した所、原発巣と類似の組織像を呈するゼノグラフトが形成された。この皮下腫瘍からは安定的に培養可能なオルガノイドが採取でき、細胞株を樹立できた。原発巣から細胞株樹立に伴って複数の SNV が濃縮されると共に、CDKN2A/B の欠損が単遺伝子座から両遺伝子座へ増加していた。この欠損が細胞株の樹立に重要な役割を果たした可能性がある。また、画像ベースの薬剤スクリーニングを行い、複数の治療候補薬を同定したため、合わせて報告する。

発表者 URL : <https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/kenkyujo/soshiki/segyo/index.html>

発表者 :

